【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第５区分
【発行日】平成25年8月1日(2013.8.1)

【公表番号】特表2012-531529(P2012-531529A)
【公表日】平成24年12月10日(2012.12.10)
【年通号数】公開・登録公報2012-052
【出願番号】特願2012-516813(P2012-516813)
【国際特許分類】
Ｄ２１Ｄ　1/22　(2006.01)
Ｄ２１Ｄ　1/38　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｄ２１Ｄ　1/22
Ｄ２１Ｄ　1/38

【手続補正書】
【提出日】平成25年6月13日(2013.6.13)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
少なくとも一つの第１精製要素と少なくとも一つの第２精製要素を備え、前記第２精製要素は、前記第１精製要素の周囲に、前記第１精製要素と前記第２精製要素が共通の中央軸を持ち、前記第１精製要素と前記第２精製要素の間に精製空間が存在し、前記第１精製要素及び/又は第２精製要素は前記中央軸の周りに回転できるように配置され、前記両精製要素は開口を有する精製表面を備え、前記開口を通して精製される繊維材料が精製空間に供給されるか又は前記開口を通して繊維材料が前記精製空間を出るように配置される繊維材料の精製装置であって、
前記精製装置は、供給チャンネル又は前記精製装置を前記精製要素の前記中央軸の方向に少なくとも二つの精製領域に分割するフランジ構造を有する供給フレームを有し、前記精製される繊維材料が前記供給チャンネル又は前記精製領域を通して前記精製空間に供給されることを特徴とする精製装置。
【請求項２】
前記供給フレームは、前記精製される材料を前記供給チャンネル又は前記供給フレーム内に供給するための開口を有することを特徴とする請求項１に記載の精製装置。
【請求項３】
前記供給フレームは前記供給チャンネルを形成する螺旋状のブレードを備えることを特徴とする請求項１に記載の精製装置。
【請求項４】
前記供給フレームは、前記精製装置のフレームに関して回転可能に設けられ、精製表面を通して延びる開口を備える精製要素が前記供給フレームに連結して設けられ、前記供給フレームとそれに連結される前記精製要素は、精製装置の回転精製要素を形成することを特徴とする請求項１乃至３のいずれかに記載の精製装置。
【請求項５】
前記供給フレームは、前記供給フレームを囲むケーシングと開口を備えることを特徴とする請求項３に記載の精製装置。
【請求項６】

前記供給フレームは、前記精製装置のフレームに関して回転可能に設けられ、ブレードバー、ブレード溝、及び開口が設けられたブレードセグメントが前記供給フレームに固定され、前記供給フレーム及び前記ブレードセグメントは共に前記精製装置の回転精製要素を形成していることを特徴とする請求項１又は２に記載の精製装置。

【請求項７】

前記供給フレームは、前記供給フレームの内部空間を完全に二つの分離された区域に分割するためのフランジ構造を有することを特徴とする請求項１、２又は６に記載の精製装置。

【請求項８】

前記フランジ構造は、開口を有し、前記供給フレームの内部空間を部分的に互いに分離された二つの区域に分離している請求項７に記載の精製装置。

【請求項９】

前記回転精製要素は固定精製要素の内部に配置されることを特徴とする請求項１乃至８のいずれかに記載の精製装置。